



## きょうりゅう へんおんどうぶつ ほんとう 恐竜 は、変温動物ではなかったというのは本当なの

### へんおんどうぶつ きょうりゅう 変温動物の 恐竜 もいた

きょうりゅう は、ちゅうるい なかま いま おな たいおん  
 恐竜 は、は虫類の仲間ということで、今いるトカゲやヘビなどと同様に、体温を  
 いってい 一定にすることができない、へんおんどうぶつ かんが へんおんどうぶつ きおん さ  
 変温動物と 考えられてきました。変温動物なら、気温が下が  
 うご ると動けなくなり、たいよう で きおん あ じぶん からだ あた じゅう うご  
 太陽が出て気温が上がると、自分の体も温められると、自由に動けるよ  
 うになります。けんをせ おお  
 けんを背おったようなステゴサウルスや、大きなえりかざりのあるトリケラ  
 トプスなどは、このけんやえりかざりが、あつ からだ ねつ そと だ れい ばん やくめ  
 暑いときは、体の熱を外に出す冷きやく板の役目  
 をし、さむ たいよう ねつ きゅうしゅう やくめ かんが  
 寒いときは、太陽の熱を 吸収する役目をしていたと考えられています。また、プ  
 ラキオサウルスの仲間のように、なかま きょだい からだ ひるま からだぜんたい きゅうしゅう たいりょう  
 巨大な体になると、昼間、体全体で 吸収した大量の  
 たいよう ねつ よる じゅうぶんたいおん たも かんが  
 太陽の熱で、夜は十分 体温を保てたと考えられます。

### へんおんどうぶつ せつめい きょうりゅう 変温動物では説明できない 恐竜 もいる

へんおんどうぶつ しんぞう ちょうじかん しんせん ち ぜんしん おく つづ  
 トカゲなどの変温動物の心臓は、長時間にわたり、新鮮な血を全身に送り続けることがで  
 きません。しかし、じそく 32 じょう いじょう はし なかま  
 時速32キロメートル以上で走るティラノサウルスや、仲間といっしょ  
 えもの に獲物をおそい、dachou のように、とんだり走ったりできるデイノニクスなどがいます。  
 これらは、にんげん とり ちか しんぞう かんが  
 人間や鳥などに近い心臓をもっていた、と考えたほうがよくなります。  
 けんびきょう ほね しら ちゅうるい にゅうるい に きょうりゅう  
 また、顕微鏡で骨のつくりを調べると、は虫類より、ほ乳類に似ている 恐竜 もいます。  
 にくしよくどうぶつ たいじゅう た りょう わりあい けんきゅう がくしゃ へんおんどうぶつ ちゅうるい  
 肉食動物の体重と、食べる量の割合を研究した学者もいます。変温動物のは虫類は、  
 にちかん じぶん たいじゅう どうりょう たいおん いてい たも  
 60日間でほぼ自分の体重と同量のえさをとればいいが、体温を一定に保っているライオ  
 ンなどは、7～10日で体重分のえさを食べます。カナダの例では、1ぴきの にくしよくきょうりゅう  
 肉食恐竜  
 たいして、とう わりあい そうしよくきょうりゅう かせき おな ちそう はっけん にくしよく  
 にたいして、20頭の割合で 草食恐竜 の化石が同じ地層から発見され、これは、肉食と  
 そうしよく にゅうどうぶつ い わりあい ちか すうじ  
 草食のほ乳動物が生きていくのにつごうのよい割合に、近い数字だったそうです。(監  
 修・今泉 忠明)

